

第4問

次の文章は、盧文昭のもとに張荷宇が持つてきた一枚の絵について書かれたものである。これを読んで、後の問い(問1〜7)に答えよ。なお、設問の都合で返り点・送り仮名を省いたところがある。(配点 50)

荷宇^ハ生^{マレテ}十月^{ニシテ}而^{ウシナフ}喪^ニ其^ノ母^ヲ。及^ビ有^ル知^ニ、即^チ時^時念^{おもヒテ}母^ヲ不^レ置^カ、弥^カ久^{シク}

弥^{あつシ}篤^ニ。哀^{かなシム}其^ノ身^ヲ不^レ能^ク一^日事^ス乎^カ母^ヲ也^{ナリ}。哀^{かなシム}母^ノ之^ノ言^ハ語^ハ動^モ作^マ亦^マ未^ダ

能^ハ識^シ也^{ナリ}。

荷^ハ宇^ハ香^{かう}河^が人^{ナリ}。嘗^{かつテ}南^ニ遊^{ビテ}而^{カヘルニ}反^ル至^ニ乎^カ錢^{せん}唐^{たう}夢^ニ母^ヲ来^ス前^ス夢^ニ中^ニ即^チ

知^ル其^ノ為^ル母^也。既^ニ覺^メ乃^チ嗽^{けう}然^{ぜん}以^テ哭^ク曰^{ハク}「此^レ真^ニ吾^ガ母^也。母^ヨ胡^{なん}為^{サレソ}乎^{ナリ}」

使^ム下^ニ我^ヲ至^{リテ}今^ニ日^ニ乃^チ得^ル見^ル也^{ナリ}。母^ヨ又^タ何^ソ去^ル我^ヲ之^ノ速^{ヤカ}也^{ナリ}。母^ヨ其^レ可^{ケン}使^ム我^ヲ

繼^{ギテ}此^ヲ而^レ得^ル見^ル也^{ナリ}。於^レ是^ニ即^{シテ}夢^ニ所^ニ見^ル為^ツ之^ガ凶^ヲ。此^ノ凶^ハ吾^ノ不^ル之^ヲ見^ル也^{ナリ}。

今^ニ之^ノ凶^ハ吾^ノ見^ル之^ヲ、則^チ其^ノ夢^ニ母^ノ之^ノ境^{ナル}而^レ已^ス。

余^ハ因^{リテ}語^{リテ}之^ニ曰^{ハク}「夫^レ人^ノ精^ニ誠^ヲ所^ニ感^{ズル}無^キ幽^ニ明^ヲ死^ニ生^ニ之^ノ隔^チ此^レ理^之

可^ク信^ズ不^ル誣^シ者^{ナリ}況^ン子^ノ之^ヲ於^{ケル}親^ニ其^ノ喘^{ゼン}息^ス呼^ク吸^ス相^ヒ通^ジ本^{ヨリ}無^キ有^ル間^ヘ之^{ツル}者^ト乎^ト」

(盧文弨『抱經堂文集』による)

(注) 1 香河——県名。今の北京の東にあつた。

2 錢唐——県名。今の杭州。香河からは千キロメートルあまり離れる。

3 来前——目の前にやってくる。

4 噉然——大声をあげるさま。

5 幽明死生——あの世とこの世、生と死。

6 誣——いつわる。ゆがめる。

7 喘息呼吸——息づかい。

問1 波線部(1)「有^レ知」・(2)「遊」のここでの意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちから、それぞれ一つずつ選べ。解答番号は 29 ・ 30。

- (1) 「有^レ知」
- 29
-
- ⑤ ものごころがつく
 - ④ 知り合いができる
 - ③ うわさを聞く
 - ② 教育を受ける
 - ① 世に知られる

- (2) 「遊」
- 30
-
- ⑤ 低い地位にしばらく甘んじて
 - ④ 故郷を離れ遠方の地を訪ねて
 - ③ 世を避けて独り隠れ暮らして
 - ② 気ままに派手な生活を送って
 - ① 仕事もせずしばらくぶらぶらして

問2 二重傍線部(ア)「即」・(イ)「乃」はここではそれぞれどのような意味か。その組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 31。

- | | | |
|---|----------|----------|
| ① | (ア) すぐに | (イ) そこで |
| ② | (ア) 意外にも | (イ) まさしく |
| ③ | (ア) そこで | (イ) すぐに |
| ④ | (ア) すぐに | (イ) まさしく |
| ⑤ | (ア) 意外にも | (イ) そこで |

問3 傍線部A「時時念_レ母不_レ置」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は

32。

- ① いつも母のことを思い続けてやむことがなく
- ② 繰り返し母のことを思っては自らの心を慰め
- ③ 時折母のことを思うといたたまれなくなり
- ④ ある日母のことを思っても思いにふけり
- ⑤ ずっと母のことを思いながらも人には言わず

問4 傍線部B「哀其身不能一日事乎母也」の返り点の付け方と書き下し文との組合せとして最も適当なものを、次

の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 33。

- | | |
|--|---|
| ① 哀 _レ 其身 _レ 不 _レ 能 _二 一 _一 日 _二 事 _二 乎 _一 母 _二 也 _一 | 其の身を哀 ^{かな} しみ一日の事を母に能 ^よ くせざるなり |
| ② 哀 _レ 其身 _レ 不 _レ 能 _二 一 _一 日 _二 事 _二 乎 _一 母 _二 也 _一 | 其の身を哀しみ一日として母に事 ^{つか} ふる能 ^{あた} はざるなり |
| ③ 哀 _レ 其身 _レ 不 _レ 能 _二 一 _一 日 _二 事 _二 乎 _一 母 _二 也 _一 | 其の身の一日の事を母に能くせざるを哀しむなり |
| ④ 哀 _レ 其 _レ 身 _レ 不 _レ 能 _二 一 _一 日 _二 事 _二 乎 _一 母 _二 也 _一 | 其の身の一日として母に事ふる能はざるを哀しむなり |
| ⑤ 哀 _下 其 _レ 身 _レ 不 _レ 能 _二 一 _一 日 _二 事 _二 乎 _一 母 _上 也 _一 | 其の身の一日として事ふる能はざるを母に哀しむなり |

問5 傍線部C「母、胡為乎使_下我至今日乃得_見也」の解釈として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ

選べ。解答番号は

34。

- ① お母様、なぜ今日になって私がここにいるとわかったのですか。
- ② お母様、なぜ今日になって私をここに來させたのですか。
- ③ お母様、なぜ今日になって私を思い出してくださったのですか。
- ④ お母様、なぜ今日になって私に会ってくださったのですか。
- ⑤ お母様、なぜ今日になって私の夢を理解してくださったのですか。

問6 傍線部D「此図」と、実際に見たE「今之図」とは、どのように異なっているか。その説明として最も適当なものを、次

の①、⑤のうちから一つ選べ。解答番号は 35。

- ① Dは荷宇が母の夢を見る場面の描かれた絵であるが、Eは荷宇が夢を見た土地の風景が描かれた絵である。
- ② Dは荷宇が母の夢を見る場面の描かれた絵であるが、Eは荷宇の夢に現れた母の姿が描かれた絵である。
- ③ Dは荷宇の夢に現れた母の姿が描かれた絵であるが、Eは荷宇が母の夢を見る場面の描かれた絵である。
- ④ Dは荷宇の夢に現れた母の姿が描かれた絵であるが、Eは荷宇が夢を見た土地の風景が描かれた絵である。
- ⑤ Dは荷宇が夢を見た土地の風景が描かれた絵であるが、Eは荷宇の夢に現れた母の姿が描かれた絵である。

問7 傍線部F「余因語之曰」以下についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。解答番号

は 36。

- ① 「まことの心は生死をも超えて相手に通じるものであり、まして親が我が子を見捨てるはずはない。」と言って、そうであれば荷宇の母が夢に現れたのは事実だと、夢の神秘を分析し納得している。
- ② 「まことの心は生死をも超えて相手に通じるとはいえ、やはり子が親と離れるのはつらいことだ。」と言って、まったくあなたが夢でしか母に会えないとは痛ましいと、荷宇の境遇に同情し悲しんでいる。
- ③ 「まことの心は生死をも超えて相手に通じるものであり、まして親が我が子から離れることはない。」と言って、やはり子に対する母の思いにまさるものはないと、母の愛情を評価したたえている。
- ④ 「まことの心は生死をも超えて相手に通じるとはいえ、やはり子は親と固く結ばれるべきだ。」と言って、それなのに荷宇が幼くして母を失ったのはむごいことだと、運命の非情を嘆きつつ憤っている。
- ⑤ 「まことの心は生死をも超えて相手に通じるものであり、まして子は親と固く結ばれている。」と言って、だから母に對するあなたの思いは届いたのだと、荷宇の心情に寄り添いつつ力づけている。